

委員会の動き

総務委員会

★地域公共交通システム運営基金条例の制定について、デマンド交通システム委託料についての質疑に対し、基金を6年間積み立てると総額5億4000万円となる。

運用経費として毎年3000万円程度見込んでいます。基金を取り崩しながらの運営となり、市費の投入が不可欠であるとの答弁があった。

★今回のシステム委託料2100万円の業務内容は、利用者からの予約受付から配車、運行計画策定のシステム構築であり、今回は双海・中山地域内に限定となるとの答弁があった。

★総合保健福祉センター建設費、公有財産購入費で、えひめ中央農協所有の土地の実勢価格はいくらか。

また、土地開発公社所有の土地購入価格はとの質疑に対し、農協所有の土地については、不動産鑑定士による鑑定結果の価格であり、土地開発公社所有の土地については、帳簿価格での購入との答弁があった。

あった。

★一般管理費、職員手当等で時間外手当を減らす努力はしているのかとの質疑に対し、手当の縮減は土日のイベント関係について、原則代休の取得を推進し縮減に努めている。

★事務事業の見直しを行い、課内で調整できるものは調整し、対応していきたいとの答弁があった。

民生文教委員会

★伊予市児童館の指定管理者の指定について、指定管理料はとの質疑に対し、過去5年間の委託料は年667万円で、来年度は950万円を予定しているとの答弁があった。

★上がった理由は人件費で、今までは指導員、臨時職員の2名体制だったが、事業内容の増加や健全育成面また、利用者からの増加から1名増はやむを得ないと考えているとの答弁があった。

★新学習指導要領対応備品についての質疑に対し、昨年度から2回の予備調査を行い、適切な希望内容となるよう調整した上で、今回3回目の調査を行った。

教材整備緊急3カ年計画の最終年度のため、できる限り新規に必要なものに限って計上した。

★また、和楽器購入は今回追加された内容であり、楽器購入に当たっては、教材専門カタログの中で学校の教材にふさわしいものを選んだ。

★郡中小校舎耐震補強工事及び北山崎小学校屋内運動場耐震補強工事の工期についての質疑に対し、郡中小は再来年の4月から5月頃から、準備し、夏休み中に工事を実施したい。

★北山崎小は体育館の外部補強のため、休み期間でなくとも、工事が行えることから23年度中の完成を目指している。

★しかし、工期がずれ込む可能性もあるとの答弁があった。そして、特に安全面において、十分な配慮をお願いしたいとの要望があった。

産業建設委員会

★施設の使用料の改定で、上限を150%以内とあるが、今後見直す計画は、また第三セクター会社が民営化しても条例に影響はないかとの質疑に対し、原則5年で見直す。

★指定管理者制度を決めていない施設で減免措置等はあるも、原則料金表どおり徴収する。

★指定管理者が民営化になった場合は、条例を利用して市との協議により、定められた料金の範囲内で運営することができるとの答弁があった。

★豊田漁港臨港道路の現況と、どのような工事を想定しているのかとの質疑に対し、集水桝の近くで直径20cmの穴が見つかつた際に機械で掘削したところ、かなりの空洞が見えた。今回どの程度空洞が広がっているかを調べるため、調査委託料を計上したとの答弁があった。

★農業集落排水処理施設の管理業務で唐川地区を含むとあるが、大平地区との話し合いは終わっているのかとの質疑に対し、平成18年度から協議を続けており、最終的に6項目の要望が出てきた。4項目については了解済みで、後2項目について市が回答を行うところまでできている。

★3月末までに大平地区の管理組合と話し合いの中、了解いただける方法をとっていきたいとの答弁があった。

編集後記

最近、「見える化」という言葉が広く使われています。

「住民に信頼される議会を築くには、議会が自ら変わらねばならない！」

北海道栗山町議会では、いち早く「議会基本条例」を制定し、議員主導で議会の「見える化」を進めています。

議会の見える化を進めるひとつが「議会だより」です。見える化のポイントのひとつに「分かりやすくシンプルに」とあります。

市民の皆様にはわかりやすい「議会だより」とは、どんな「議会だより」なのでしょう。この一年、多くの市民の皆様と語り合い、「対話」を積み重ねることができ、「議会だより」にの思いです。

文責 門田裕一

議会広報調査特別委員会

委員長 武智邦典

副委員長 北橋豊作

委員 日野猛仁

委員 高井洋一

委員 門田裕一

委員 青野光

委員 水田恒二